住まいとつながりをすべての人に

連帯保証人提供事業

特定非営利活動法人 やどかりプラス（鹿児島県 鹿児島市）

地域共生社会に関する取組

高齢者　子ども　若者　地域住民
障害者　生活困窮者　認知症の方　その他

基礎情報		
	人口（R7.1月時点）	591,263人
	高齢化率（R7.1月時点）	29.2%
	要介護認定率（R7.1月時点）	20.9%
	取組の予算規模（年間）	300～500万円程度

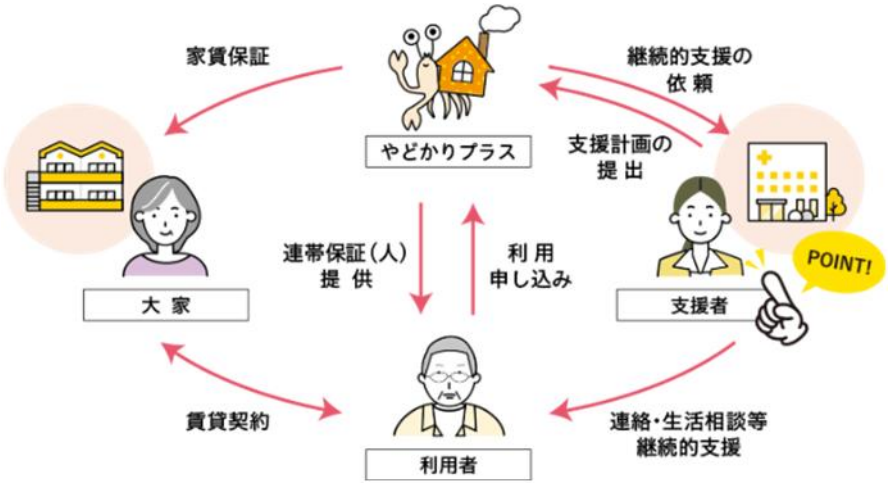
詳細はHPから
https://npo-yadokari.jp

取組概要

- 高齢、障害、貧困等の社会生活上の困難が原因で連帯保証人となる方がいないために賃貸住宅に入居できない方々に対して、賃貸借契約時に連帯保証人を提供するとともに、賃貸住宅入居時および入居後に発生する様々な問題に対して、総合的な居住支援事業を実施している。

背景・きっかけ

- ホームレス支援の現場で保証人が確保できないために住居を確保できないという課題があった。障害者支援の現場においても保証人が確保できないために精神科病院から退院できない「社会的入院」という課題があった。こうした双方の分野に通ずる課題を解決するために、平成19年、前身団体であるNPO法人やどかりサポート鹿児島が設立され、地域ふくし連帯保証の取組が始まった。



サポートの仕組み

取組の経緯

- 平成18年、鹿児島においてホームレス支援を行っていた任意団体のグループ（鹿児島野宿生活者支えあう会、NPO法人かごしまホームレス生活者支えあう会の前身）と、鹿児島県精神保健福祉士協会、鹿児島県社会福祉士会のメンバーが約一年をかけて勉強会を毎月開催、仕組みを考案、NPOの設立に至った。

連帯保証人提供事業
やどかりプラス

取組詳細

- **取組内容**
  - ✓ 連帯保証人の提供にあたり、地域福祉の担い手と連携し「支援者※」を配置。
    ※支援者：利用者の日常生活・社会生活を継続的に支援する専門知識を持つ個人や団体。（通院している病院のソーシャルワーカー、ケアマネジャー、相談支援専門員 等）
  - ✓ 支援者には「支援計画書」に基づいて、定期的な見守り等の居住支援をお願いしている。
- **実施体制**
  - ✓ 主体：やどかりプラス
  - ✓ 連携先：地域ふくし連帯保証において利用者（入居者）に対する支援を提供する「支援者」（障害福祉サービスや介護保険サービスの事業者が主であり、入居者に対する見守り、相談支援の提供を行っている。）
- **財源**
  - ✓ 国土交通省居住支援協議会等活動支援事業：H30年～

成果

- 定量面：
  - 地域ふくし連帯保証により、累計800名以上の方に対する保証の提供を実施。
- 定性面：
  - 令和元年度から、制度事業による「支援者」がいない生活困窮者等に対する保証の提供を実現するために、当事者同士がつながりあうことを前提に保証を提供する「やどかりライフ」事業を開始したが、事業を通じて、当法人は「当事者主体の居住支援」を志向するようになり、様々な事業を居住支援の対象となったことのある当事者の方々と共に実施するようになっていった。

今後の展望

- 地域ふくし連帯保証の理念は「保証とつながりの提供」である。そこから当事者同士がつながりあう「やどかりライフ」へと発展していった。現在は個々人の課題・社会課題の双方についてコミュニティの働きや力によって解決を目指す「コミュニティ・アプローチ」の確立を目指している。

取組のポイント

- **支援者の配置**

  連帯保証人の提供にあたって「支援者」を置くことが、取組の最大のポイントであり、障害福祉サービスや介護保険サービスを利用している方について、この仕組みがうまく機能したことで、多くの方々の地域生活の基盤となる住まいの獲得につながった。





サポートの様子